

週刊

1998  
7-9  
木曜日発売

300円

# ASCII

WEEKLY

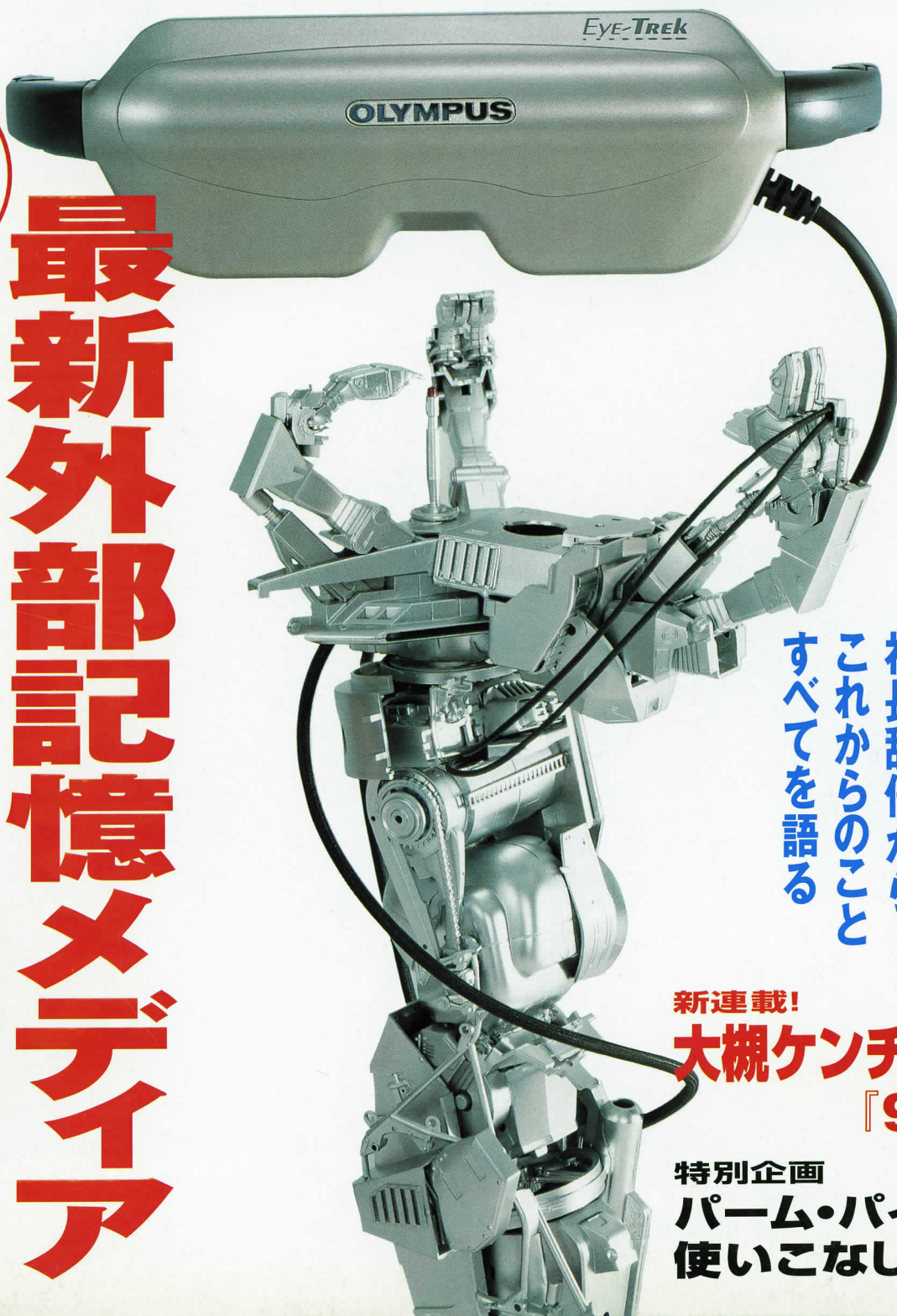
weekly.ascii.co.jp

特集

DVD-RAM  
CD-R  
CD-RW  
MO  
Zip  
Zip Plus  
SuperDisk  
HiFD  
PD  
Jaz  
Jaz 2GB  
SyJet  
SparQ  
Shark  
Clik!  
ditto

最新外部記憶メディア

16種



西和彦インタビュー

社長辞任から  
これからのこと  
すべてを語る

新連載!  
大槻ケンヂ的'90年代記  
『90くん』

特別企画  
パーム・パイロット  
使いこなし大全



■社長辞任から今後のプロジェクトまで、  
すべてを語る

# PC世代の 第一幕は終わった 次の時代を担う 次世代マシンを 僕も研究していく

取締役  
エデュケーションカンパニー  
プレジデント  
株式会社アスキー

## 西和彦

かつて“ベンチャーの雄”と異名をとった人物が、  
11年間勤めたアスキー代表取締役社長の座を、  
退くことを明らかにした。それから2ヵ月。その  
胸中に揺れるさまざまな思いを語ってもらった。

インタビュー/福岡俊弘(本誌編集長)

撮影/阪倉孝幸

i  
n  
t  
e  
r  
v  
i  
e  
w



昨年12月末に大手情報サービス企業のCSKグループと資本提携したアスキー。新しい事業旋風が吹き込まれて社員の間にも高まったが、それと同時に今年4月27日、アスキー代表取締役社長である西和彦の、社長から取締役への降格が明らかになった。その記者発表から早くも2ヵ月。その後も、西は今なお忙しい日々を送っているが、現在の心境はどのようなものだろうか。本誌編集長福岡俊弘が西の直近の素顔にせまった。

社長辞任を  
言ったとき、全部  
辞めなければと思った

——まずは、社長辞任を決められたときの心境を。

「4月23日の夜、新橋の料亭でベネッセの福武総一郎社長と大川功会長（CSK兼セガ・エンタープライゼス代表取締役会長）が会食されるということで、僕も声をかけられて行っただんですが30分くらい早く着いたんです。その時大川会長はすでにいらしてて、ずつと考えていたことがあるんですが、社長を辞めなければならぬと思うのですが」と申し上げた。すると会長は「わかっている」とひと言だけおっしゃって……その時は、全部退くことになるだろうと思ってました。4月27日に社長辞任の記者発表をしたのでしょ。会談からそれまでわずかな期間だったけど、本当に全部辞めるんだと思ってたんですよ。会社を始めて初めて赤字を出したことが、一番辛かった」

——社長辞任発表から約2ヵ月  
たつたんですけど、今の心境はど  
うですか？

「今は、アスキーが教育事業をどのように展開していくかを毎日のように考えているんです。現在のアスキーの中で、教育事業のカンパニーは規模的に小さいけど、業績は比較的安定しているから、それを伸ばしていきたいと思う英語で犬のように働く(Work like a dog)って表現があるけど、そういう感じで一生懸命仕事して、ちゃんと教育事業を立ちあげていこうと決意しています」

3年我慢した会社が  
この不景気を  
乗り越えるだろう

——今の景気の話からお聞きしようと思うのですが。

「景気は、来年のほうがいいかも」と悪いと思うんです。米国の株価が7000ドル〜9000ドルくらいをウロウロしていたらいいけど、もし株価が1万ドルにのるようなことが起こったら、必ずその次に株価大暴落っていうのがあると思う。米国で大暴落が起こったら、日本はその煽りを受けて今よりもっと厳しくなるでしょう。しかも、'99年と2000年は世紀末であることも手伝って、景気がもっと元気がなくなっていくでしょう。だから、景気が上向くのは2001年以降、21世紀になつてからだと思います。今の状況では、ソニーとかトヨタとかホンダとか、世界に自社製品を輸出している企業は問題な

いかもしれないけど、日本国内だけで勝負してる企業は、今から自社製品を輸出しようなんて無理だから、結局、日本の中の企業どうしの我慢比べになると思うんです。今から3年間、我慢し生き続けた企業だけ残る。そのために今の時点での戦略としては、ひとりでも多くのお客様に絶対に喜んで買ってもらえるものを創る、ということに尽きるのではないのでしょうか。結局、今までのバブルのときのような経営はできないんです。それをひとりひとりがきちんと認識し実践すること。そういうことを判っている企業が勝ち残っていくってことだと考えています」

だと考えています」

——世間の風評としては、西さん  
はけっこう「バブルの人」って  
いうイメージがあると思うん  
ですけど……。

「昔はそうだったかもしれないけど、今は違うよ。週刊アスキーのインタビューに応じようと思ったのも、最近はいい子なの」ということを読者の方に知っていたきたという願いがあってのことなのです。『デジタル日記』（本誌連載中）を読んでいただければわかってもらえると思うんですけど……」

——『デジタル日記』といえ  
聞きたいことがあるんですけども  
……。 4月27日以降わりと頻繁  
に、大川会長とセガの入交昭一  
郎社長とと一緒にマイクロソフト  
(以下MS) やサン・マイクロシ  
ステムズに行かれてますよね。サ  
ンの社長にも熱烈的歓迎を受け  
られたとか。実は今日(取材日

は6月17日）MSの古川亭会長  
にお会いしたんですけれども……。

「それは絶対に秘密」

——やっぱり秘密ですか

「それをしゃべると、今度こそ全部辞めてしまえつてみんなに言われるからね（笑）」

ドリムキャストは  
アスキーの教育事業に  
欠かせないもの

——セガが中心に開発しているドリムキャストについて、お伺いしたいんですが。

「ドリームキャストは大変素晴らしい機械です。PCより強力なグラフィックスがついているしモデムもついている。僕は、ドリームキャストにたくさんメモリーを積んで、ハードディスクやフロッ



■ 33.6Kbpsモデム、最大同時発色数約1677万色が可能なドリームキャスト。次世代ゲーム機だけでなく、最もパフォーマンスのいいインターネットターミナルとしても注目度は高い。





■6月17日には、日本が世界に先がけ一番早く製品発表会を行なったウィンドウズ98。7月25日には店頭販売が開始される。

うんですが。

「ウィンドウズCEで動いているということ、本体にいろんな機能を付けることができるんです。それに、データベースはウィンドウズNTでしょ。この2つの組み合わせは大変楽しみですよね。だって、2〜3万円でインターネットに接続できる端末があるなんて、考えただけでビックリするよね(笑)」

## 国際的なものを 取り締まるなんて 難しい

「そのインターネットについてのお考えを、少しお聞きしたいんですが。」

「今、日本のインターネットユーザーの数は1000万人。今年中に1200万人になると思うけど、そうしたら日本の人口の1割でしょ。すごい時代になりましたよね。今後もっと、爆発的に増えるでしょう。でも、今はまだ景気も悪いし、インターネットに大きくお金を稼ぎ込むことはできないんじゃないかと思うんです。最小限の資金で技術を磨いて、自分に経験を蓄積しながら、いざという時に独り立ちして勝負できるようにしておくというのが良いんです」

「米国でも、多くの場合、インターネットで儲けているわけじゃないですからね。」

「そうそう。インターネットで新しい産業が生まれつつあると思うし、その産業が発展するのは、どうしても回り道や抜け道が必要なのかもしれない。別にそれを悲

観的に考えなくてもいいんじゃないかと思えます。僕なりの考えは、インターネットを今後アスキーがビジネスにどう使っていくかという、それは教育事業です。真剣に勉強したい人に、会社教育・社会教育の、インターネットを使った塾を、学習塾と組んでやりたいな、と思ってるんです」

「その、教育との兼ね合いについてなんですけど、最近、子供がインターネット上で詐欺を働いたとか、PCで偽札を作るとか少年犯罪が多いですね。」

「……秩序がないんです。インターネット自体が今のところ無法地帯って感じですから。国内だけの問題であれば警察が対処できるものもあるけど、インターネットのような国際的なものと、例えばどっかの国がどっかの国を中傷した、とかいう国際的な紛争をどういうふうに取り締めるのかは、なかなか難しい問題です」

「まだ、国際紛争までは……。」「いえいえ、絶対起きると思います。インターネットって国際的につながってるでしょう? で、ほとんどのユーザーが使う言葉は英語でしょ。でも、英語の理解ってその国で違うでしょ。米国と英国でも違うわけですよ。世界標準だと思って使っているものが、受け取り側が違い、その認識が違うことによって、まったく違う意味に取られてしまう。これがこれからわれわれが直面する大きな危機でしょう。今のところこれを救う方法はないんです。インターネットは国に属さないですか

ピーをつけてPCにしていまいたいんだけど、ゲーム機とPCを混同するな、っていうことになっているから」

「モデムがついてて、推定価格がずいぶん安いですよな。」

「2〜3万円だもんね。ドリームキャストで、インターネットを使ったマルチゲームみたいなのができるようにあります」

「それって、教育ジャンルということですか?」

「教育ソフトって、PCベースでやると、どうしても細々とやるしかない。その点、ドリームキャストは低価格だから100万台

なんてすぐ越えちゃうでしょ。ドリームキャストは今年11月に発売して、多分来年1月にはすべ

100万台いくスピードで売れるでしょう。その年4月からの新学期にターゲットを合わせて、ドリームキャスト対応の教育ソフトが出てくると思う。その流れを考えにいれて、僕はやっぱり教育ソフトを作りたいと思っています」

「ドリームキャストはウィンドウズCEを搭載して、NT

の環境で開発できるんですよね? それを考えると、自社のアスキーNTの今後の事業展開についていうのが大きなものになっていくと思

## 社長辞任から 今後のプロジェクトまで、 すべてを語る





■西和彦(右)と肩を並べる本誌編集長福岡俊弘。インタビューは終始和やかなムード。



らね。買おうと思えばマシガンや武器が買えるし、国際化っていうのは運動して物が拡散しますからね。これは悪いことですよ」

**17年目にしてPCのインターフェイスが変わったことが大きい**

——インターネットといえば、ついにMSからウィンドウズ98日本語版が正式発表されましたが、売れると思いますか？

「ウィンドウズ98は、売れると思います。ウィンドウズ98には2つ、重要なところがあると思うんです。ひとつはUSBのサポート。この17年間、PCはウィンドウズ3.1からウィンドウズ95、ウィンドウズ98になり、変化しているわ

けど、PCのお尻つていうのは17年間変わってないんですよ。パラレルポートとシリアルポート、それにVGAコネクタ……これだけ。これはもう勘弁してほしいよね(笑)。家に帰ると、デジタル表示のできるものはたくさんある。僕は毎日体重計にのるたびに、何で体重計のデータが僕のPCに入らないんだろう。エクセルに入れば、体重のグラフがすぐに出て便利なのに、って思うわけ。これがUSBのサポートによって可能になった。17年目にしてPCのインターフェイスが変わったということがすごく大きなことなんです。これからは、体重計だのスケキナーだの、家電製品をもう100個くらいUSBでつ

なげてPCでアシストするってことが出来る、そういう時代がくるでしょう。2つめは、ウィンドウズ98のOSそのものがスーパードラウザーだったこと。ウィンドウズ95が出たときは、インターネットが爆発する前で、ウィンドウズ95はまさにPCのOSだった。でもウィンドウズ98は、自社のパソコンのファイルシステムがローカルウェブっていう発想です。この発想はある意味では危険な判断だったかもしれない。言いかたを変えたら、『ウィンドウズの次のOSは、『ウィンドウズ98』じゃなくて『インターネット』だった』ということ。そしてローカルとリモートを両方とも強力にサポートするブラウザーがウィンド

ウズ98であるということ。これはすごいことです」

——ウィンドウズ98は次世代PCとも言えるのでしょうか？

「そうですね。でもMSだけでなく、僕自身もずっと、次世代PCのコンセプト創りはしていきたい。今の業界の不景気からわかるように、PC世代の第一幕は終わったんです。今後は『次世代PC』が出ないと始まらないと思う。光ディスクとかグラフィックスとかもそうだけど、PCにはUSBやIEEE1394をサポートさせて、そして、そのマシンで何をするか。そのところをクリエイティブに考える必要がありますね」

(6月18日、ホテルオークラにて)

■「ウィンドウズ98のUSBは、17年間に及ぶPCの苦しみを救った」と語る西。